

外 科

【人員体制】

理事長 1 名 副院長 2 名 部長 2 名 医長 1 名
医員 2 名

【診療科目】

消化器外科 乳腺外科 内視鏡外科 移植外科
内分泌外科

【実績と取り組み】

2018年3月をもって名古屋市立大学からの派遣は終了し、4月から部長以下岐阜大学高度先進外科および岐阜大学腫瘍外科からの派遣となりました。新体制になり、順調に手術症例数は増加しました。悪性腫瘍手術において、大腸がんは100例を超え過去最高となりました。その他、緊急手術も増加傾向です。今後はさらに症例数をのばしていきたいと考えています。

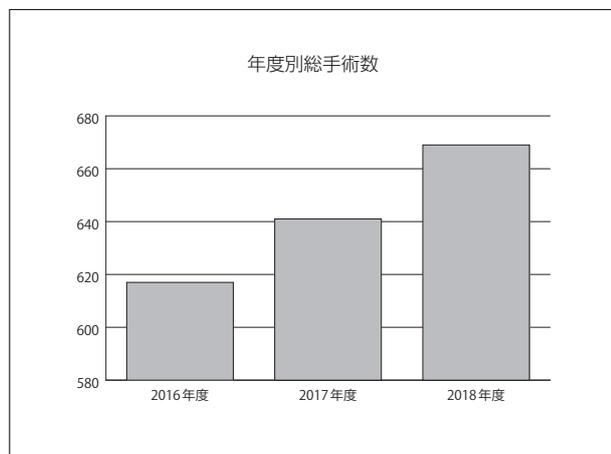
そして2019年4月からは、岐阜大学高度先進外科より、食道・胃、肝胆膵等の高難度手術に精通した木村先生が赴任されました。この2年間、

当院で行われた食道がんの手術は、木村先生に施行していただいております。木村先生という強力なスタッフが加わることでますます外科の発展が期待されます。当科で行われる消化器外科全身麻酔下の手術のうち2/3が鏡視下手術となっています。

消化器外科医の目標である日本内視鏡外科学会技術認定取得者は、現在、關野、木村、栃井の3名で、それぞれ大腸、胃、鼠径ヘルニアと異なる3領域にまたがっています。このような施設は全国的にも稀です。消化器外科悪性疾患で最も多いのが大腸がん、次に多いのが胃がん、消化器外科良性疾患で最も多いのが鼠径ヘルニアですので、そのニーズは非常に高いと考えられます。さらに当院外科から取得者を増やしていきたいと考えております。

また2019年度は、いよいよ消化器外科におけるロボット手術を軌道にのせたいと考えております。

〔文責：關野考史〕



疾患別手術数			
	2016年度	2017年度	2018年度
食道癌	2	5	4
胃癌	32	39	47
大腸癌	80	80	101
肝胆膵癌	30	21	30
乳癌	64	58	61
胆石	82	81	98
ヘルニア	78	124	113

心臓血管外科

【人員体制】

部長 1 名、医員 2 名

【診療内容】

心臓・大血管・末梢血管全般の手術を行っています。2018 年度の総手術件数は 491 件でした。

【手術実績】

開心術

弁置換（1 弁） 20 件

弁形成（1 弁） 4 件

弁置換（2 弁） 1 件

弁形成（2 弁） 1 件

大動脈弁下狭窄切除術 1 件

弁輪拡大を伴う大動脈弁置換 1 件

OPCAB 16 件

MIDCAB 2 件

他の開心術と併せて実施した

冠動脈バイパス（人工心肺使用）（2 吻合以上） 6 件

冠動脈バイパス（人工心肺使用）（1 吻合） 4 件

心室中隔穿孔閉鎖術＋冠動脈バイパス（1 吻合） 1 件

心房中隔欠損症閉鎖術（単独） 1 件

メイズ手術 3 件

心臓腫瘍摘出術（単独） 2 件

大動脈瘤切除術（オープンステント 上行・弓部） 7 件

大動脈瘤切除術（上行・基部置換） 2 件

大動脈瘤切除術（上行・弁置換） 1 件

大動脈瘤切除術（上行・弓部） 1 件

大血管手術

大動脈瘤切除術（腹部大動脈・分枝血管再建） 8 件

大動脈瘤切除術（腹部大動脈） 1 件

ステントグラフト内挿術 胸部大動脈 6 件

ステントグラフト内挿術 腹部大動脈 16 件

ステントグラフト内挿術 腸骨動脈 2 件

末梢血管手術

バイパス移植術 下腿、足部動脈 37 件

バイパス移植術 その他の動脈 50 件

動脈形成術 8 件

下肢静脈瘤 血管内焼灼術 18 件

下肢静脈瘤 抜去切除術 15 件

下肢静脈瘤 高位結紮術 11 件

内シャント設置術 52 件

内シャント血栓除去術 15 件

動脈塞栓除去術 9 件

その他

腐骨摘出術 67 件

中足骨摘除術 16 件

四肢切断術 2 件

他

計 491 件

〔文責：水野裕介〕

整形外科・関節外科センター・脊椎外科センター

【人員体制】

福田雅（整形外科部長、関節外科センター長）、
瀧上伊織（関節外科部長、関節外科副センター長）、
日置暁（脊椎外科部長、脊椎外科センター長）、田
中薫（整形外科副部長）、山口良大（整形外科医長）
の常勤5名。

【診療内容】

関節外科、四肢外傷、スポーツ障害・外傷、脊
椎外科。

【取り組み、実績】

2018年の総手術件数は694件（2017年より
64件増）でした。

脊椎手術は194件で57件の増加ですが、その
うちBKP（Balloon Kyphoplasty）が44件と昨年
同様（1件増加）とコンスタントに手術症例が入っ
てきています。偽関節化した脊椎圧迫骨折に対し
て、低侵襲で高い除痛効果が望めるBKPは、超高
齢社会の現状ではますます需要が高まっていると
感じています。

人工関節は29件で昨年より4件減少、関節鏡
視下手術は46件と2件の減少でした。瀧上医師
の赴任により、今後人工股関節の症例が増加して
いく見込みです。

相変わらず外傷、特に高齢者の大腿骨近位部骨
折が多いのは2次救急病院としては当然のことで
はありますが、年々手術対象の年齢層も上がり90
歳以上の手術患者が当たり前になってきました。
認知症や全身合併症のコントロールに他科のご協
力をいただきながら、可能な限り安全に、早期の
在宅復帰を目指すことを心がけて、引き続き努力
して行く所存です。

【手術件数】

脊椎手術	194件
頸椎手術	28件
腰椎手術	122件
胸椎・胸腰椎など	44件
人工股関節	16件
人工膝関節	13件
人工肩関節	0件
関節鏡手術	46件
膝関節鏡	23件
肩関節鏡	14件
肘関節鏡	5件
足関節鏡	1件
その他（股関節、手関節など）	3件

〔文責：福田 雅〕

脳神経外科

【人員体制】

2018年（平成30年）の脳神経外科メンバーとしては、2018年10月1日までは2012年卒の大鷲悦子先生が、そして2018年10月1日に大鷲先生が退職した後は、2012年卒の木下喬公先生が代わりに赴任してきました。1992年卒の私と2007年卒の澤田重信先生は変わらず3人体制でした。

【診療内容】

木下、大鷲の両先生とも開会手術およびカテテル手術の両方にやる気があり、今後一人前の脳外科医になろうとする気概を感じる先生達が頑張ってくれたこともあって、2018年（平成30年）の年間手術件数は204例と昨年の180例よりも20例以上も増加しました。

年間総手術件数204例の内訳としては、手術室での手術件数139例+カテ室での脳血管内手術件数65例で、この数字を分析すると、手術室での手術件数もカテ室での手術件数も両者とも、昨年より増加した結果には満足しています。今後も、脳神経外科という科の特徴から、救急車からの脳卒中患者の搬入数をいかに増加させるかが極めて重要ですので、24時間365日通話可能な脳外科独自の脳卒中ホットラインを、今後も活用して症例数を増加していきたいと思っています。しかしその一方で、重要なのは件数だけではなく提供する医療の質ですから、これまで通り一例一例を大切にす姿勢で臨床成績にこだわって治療し、さらに困難な疾患にも逃げずに立ち向かって手術していく姿勢を保持しながら、**最低200件**以上の手術件数をコンスタントに維持していきたいと思っています。

< 2018年度脳外科手術内訳 >

脳神経外科的手術総数 204 例

I. 脳腫瘍

脳腫瘍摘出術	8 例
脳腫瘍その他	1 例
開頭・生検術	2 例
経蝶形骨洞手術	6 例

II. 脳血管障害

破裂脳動脈瘤クリッピング術	20 例
未破裂脳動脈瘤クリッピング術	7 例
脳動静脈奇形	1 例
頸動脈内膜剝離術	7 例
バイパス手術	5 例
開頭血腫除去術	4 例
脳血管障害その他	13 例

III. 外傷

急性硬膜下血腫	9 例
慢性硬膜下血腫	44 例

IV. 奇形：(1) 頭蓋：脳 1 例

V. 水頭症

脳室シャント術	8 例
---------	-----

VI. 機能的手術

脳神経減圧術	1 例
その他	2 例

VII. 血管内手術

血管内手術総数	64 例
破裂脳動脈瘤塞栓術	3 例
未破裂脳動脈瘤塞栓術	3 例
動静脈奇形・脳	1 例
閉塞性脳血管障害	44 例
(ステント使用)	(42例)
血管内手術：その他	15 例

[文責：澤田元史]

呼吸器外科

当科の手術ではほとんどの症例において胸腔鏡を用いた手術を行っています。最も多い疾患である肺がんの手術では、側胸部に6-8cmの皮膚切開1か所と、1-2cmの皮膚切開創2か所を加えた胸腔鏡補助下の手術を行っています。標準手術は肺葉切除ですが、症例により縮小手術（部分切除あるいは区域切除）、あるいは周囲臓器の合併切除を含めた拡大手術を選択しています。

2018年の手術症例は123例で、肺がんの切除例が70例（原発62例、転移8例）と半数以上を占め、気胸が17例ありました。

術後の在院日数は、これは同じ疾患であっても手術術式に左右されますが、中央値は肺癌で5日、転移性肺腫瘍5日、気胸4日となります。

当科では、呼吸器外科医師一人で呼吸器科領域全般に関する診療を行っています。手術は他院呼吸器外科専門医を助手として行う体制を整え、日常診療も外科、呼吸器内科、ICU医師と緊密な連絡をとることで、円滑に診療を行っています。

当科の診療のあり方として病診連携が非常に大切と考えています。術後安定した患者さまでは基本にご紹介いただいた医院へ通院していただき、必要に応じて当院にも受診していただく、患者さんのニーズにも合った診療体制を構築いたします。

【2018年 開胸手術症例数】

疾患・手術		
肺がん（切除症例）	原発性肺がん	62
	転移性肺がん	8
縦隔腫瘍		3
悪性胸膜中皮腫		1
気胸		17
膿胸		1
手掌多汗症		6
診断的手術・良性肺疾患手術		18
その他		7
計		123

【2018年 主な疾患の術後在院日数】

疾患	中央値（平均値）
原発性肺がん（切除症例）	5(6)
転移性肺がん（切除症例）	5(4)
気胸	4(5)

〔文責：春日井敏夫〕

形成外科

【人員体制】

部長 1 名、医員 1 名

【診療内容】

形成外科全般の診療を行っているが、特に顔面外傷や切断指再接着をはじめとした手指の外傷例が多い。眼瞼下垂症手術は加齢性の症例に加えて

先天性眼瞼下垂の治療も行っている。

乳房再建では乳腺外科の協力もあり、乳房切除術と同時に再建を行う一次一期再建に力を入れている。乳がんにかかっていても乳房を失う時期がないため、患者さんには概ね好評である。

〔文責：北澤 健〕

松波総合病院 2018 年度

外傷	上肢・下肢の外傷	121
	外傷後の組織欠損（2次再建）	1
	顔面骨折	25
	顔面軟部組織損傷	40
	頭部・頸部・体幹の外傷	15
	熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷	5
	小計	207
先天異常	頸部の先天異常	0
	四肢の先天異常	3
	唇裂・口蓋裂	0
	体幹（その他）の先天異常	4
	頭蓋・顎・顔面の先天異常	14
	小計	21
腫瘍	悪性腫瘍	18
	腫瘍の続発症	0
	腫瘍切除後の組織欠損（一次・二次再建）	18
	良性腫瘍	218
	小計	254
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	18
	小計	18
難治性潰瘍	その他の潰瘍（下腿・足潰瘍を含む）	11
	褥瘡	0
	小計	11
炎症・変性疾患	炎症・変性疾患	23
	小計	23
美容	手術	3
	処置（非手術、レーザーを含む）	31
	小計	34
その他	その他（眼瞼下垂、腋臭症）	150
	小計	150
合計		718